

---

## ICT を活用した

### 主体的な読みの深まり

丸亀・綾歌中 大 広 遥 香

---

#### 1 授業実践

(1) 単元 (題材) 「論語」

(2) 題材について

① 本単元を扱う際、〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと「エ 文章を読んで考えをを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」及び、〔知識及び技能〕(3)イ「長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。」に重点を置いた。「論語」は古くから読み継がれてきた古典作品であり、日本人の思想や言葉に影響を与えてきた。その影響から、孔子の考え方は現在の生活にも通じる場所が多々ある。生徒が他者と対話しながら古典作品を理解し、自分の考えを深めるために、「論語」は適した教材だと考える。

② 本学級の生徒は、話し合い活動や、班での意見交換にも積極的に取り組んでいる。古典では、暗唱に取り組んだり、訓点や現代仮名遣いを理解して現代語訳をしたりして、内容を理解する学習も進めてきた。今年度実施した国語学習に対するアンケートでは、古典（漢文）の授業が苦手だと感じている生徒は 24%いた。このことから、古典を読むことに対しての苦手意識がある生徒が多いことが分かる。これは、古典が生活から切り離されたものであると感じていることが原因だと考えられる。そのため、今回の言語活動を通して、古典作品も現代の生活に通じるものがあると気付き、苦手意識を無くし、自分たちの経験と結び付けて自分の考えをもたせたい。

③ この課題を踏まえて、次の二点に留意して指導していきたい。

- ・ 生徒が主体的に学習に取り組むために、「論語」で解決できそうな友人や教師の悩みを、各自で選択させる。実際に「論語」の一節を引用して実際の悩みに対する回答文を作るという課題を設定することによって、生徒の主体的な読みを引き出した。

- ・ 個々の悩み解決の文章が適切に書けているか班の中で検討し、適切な助言になるように話し合いをさせたい。また、引用した「論語」の一節が悩み解決につながると考えた理由に納得できるかどうか、意見し合うことによってものの見方や考え方を深めさせたい。

(3) 学習指導目標

- ・ 「論語」の一節を理解し、回答文に取り入れて引用することができる。
- ・ 「論語」を読んで、自分の経験と結び付け、社会や人間の生き方について自分の考えをもつことができる。
- ・ 自分が引用した論語の一節と回答文の内容が適切か考えて、その理由を分かりやすく伝え合おうとし、班員の回答文にも適切な助言をしようとする。

(4) 学習指導計画 (全7時間)

① 「論語」の内容を確認し、訓読の仕方を確かめる。・・・1時間

② 「論語」を音読し、現代語訳を読み、孔子の考え方を大まかにつかむ。・・・2時間

③ 「論語」の言葉から、教師・友人の悩み解決につながる言葉を探し、回答文を作成する。・・・3時間(本時3/3)

④ 回答文に対して返信をし、「論語」で学んだことを振り返る。・・・1時間

(5) 本時の学習指導

①目標

- ・ 「論語」の一節を読んで、社会や人間の生き方について自分の考えをもつことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	指導上の留意点及び支援活動	形態
1 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悩みの回答文の修正案を交流する前に、生徒中心で考えた「よい回答文にするためチェックリスト」の内容を確認する。</li> </ul>	全体
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     学習課題 『論語』の考えをヒントに、みんなの悩み解決策を考えよう！                 </div>		
2 悩み相談の回答文を修正する。 (1) 回答文修正の手順を確認する。 (2) 自分の回答文に対する班員の意見を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班員の回答文を読み、よい回答文になる条件を満たしているか評価しておく。直したほうがいい部分をコメントさせるために、あらかじめ互いに検討する際の観点をもたせておく。</li> <li>・ 教師が簡単な回答文を用意しておき、チェックリストに沿った検討の手順を確認する。</li> <li>・ 自分の回答文を読み返し、作成する中で困ったことや聞きたいことも回答文の中に記述しておき、班活動の中で助言をもらうようにしておく。</li> </ul>	個人
(3) 班で回答文を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価のコメントから疑問に思ったこと、相談したいことを中心に話し合わせる。</li> <li>・ 他に悩み解決に使える一節が無いか、タブレットや本を活用して探すように伝える。</li> <li>・ 悩み解決につながる論語の一節が見つけれない生徒には、準備しておいた一節を紹介する。</li> <li>・ 検討した内容を整理し、自分の回答文を書き直す。</li> </ul>	班
3 回答文を書き直す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答文の修正に悩む生徒には、必要に応じて悩み相談の事例や他の生徒の具体例を示す。</li> <li>・ よい例があれば紹介し、書き直しの参考にさせる。</li> <li>・ 修正が終わっている生徒同士で助言し合い、再度修正してよいことを伝える。</li> <li>・ 大きく変化があったものや、よりよい回答文になったものを紹介し、振り返りの参考にさせる。</li> </ul>	個人
4 回答文を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書き直した回答文を提出し、授業の振り返りをさせる。振り返りの観点として、「論語」に対しての印象、回答文を書くことを通して気付いたことを書かせる。</li> </ul>	全体
5 振り返りをする。		個人

2 成果と課題

生徒、教師から集めた悩みを自分たち自身で選択させ悩みを解決するという課題を設定することによって、活発に話し合いがあり、主体性をもった活動ができた。また、タブレットでの文章の推敲（書き直し）は、これから求められる能力の育成にもつながったと感じる。一方、ICTのさらなる活用の方法や、「論語」の正しい解釈のために事前授業は不十分であったと考える。